

www.elsevier.com/locate/joc | DOI: 10.1016/j.joc.2014.04.001 | TML



東京都
庭園美術館
TOKYO METROPOLITAN
GARDEN MUSEUM

各位

日頃より東京都庭園美術館をお引き立ていただき誠にありがとうございます。

当館では、2025年6月7日（土）－8月24日（日）の会期で「建物公開2025 時を紡ぐ館」展を開催いたします。年に一度の建物公開展。今回は、旧朝香宮邸における建築空間の機能の変遷に着目します。邸宅・政務の場・迎賓館・催事施設と歩んだ稀有な歴史を彩るゆかりの作品・写真・映像を通して、建物の記憶を紐解きます。ぜひ貴媒体にて本展をご紹介いただけますよう、お願い申し上げます。



開催概要

展覧会名	建物公開2025 時を紡ぐ館 (英タイトル) Looking at Architecture 2025: A Mansion's Many Eras
会期	2025年6月7日（土）－8月24日（日）
開館時間	10:00－18:00（入館は閉館の30分前まで）
休館日	毎週月曜日 ※ただし7月21日、8月11日は開館、7月22日、8月12日は休館
会場	東京都庭園美術館 本館＋新館
観覧料	一般＝¥1,000（¥800）／大学生（専修・各種専門学校含む）＝¥800（¥640）／高校生・65歳以上＝¥500（¥400）

※（ ）内は20名以上の団体料金 ※展覧会チケットはオンラインおよび美術館正門チケット売り場にてご購入いただけます。ただし、6月25日（水）・7月2日（水）はフラットデー開催日のため、美術館正門チケット売り場での販売を行わない場合があります。無料・割引対象者以外は事前にオンラインにてご購入ください。チケット販売に関する最新情報は当館ウェブサイトをご確認ください。※中学生以下は無料／身体障害者手帳・愛の手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・被爆者健康手帳をお持ちの方とその介護者2名は無料／教育活動として教師が引率する都内の小・中・高校生および教師は無料（要事前申請）／第3水曜日（シルバーデー）は65歳以上の方は無料

※国立科学博物館附属自然教育園との観覧料相互割引実施予定

主催	東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都庭園美術館
年間協賛	戸田建設株式会社、ブルームバーグ L.P. Bloomberg Van Cleef & Arpels

会場情報

東京都庭園美術館 東京都港区白金台5-21-9

〔目黒駅〕JR 山手線東口／東急目黒線正面口より徒歩7分

〔白金台駅〕都営三田線／東京メトロ南北線1番出口より徒歩6分

TEL: 050-5541-8600（ハローダイヤル）

WEB: www.teien-art-museum.ne.jp

X Instagram Facebook @teienartmuseum



お問合せ

展覧会広報お問合わせ先

東京都庭園美術館 広報担当：平木、中島

TEL: 03-3443-0201 / FAX: 03-3443-3228 / MAIL: press@teien-art-museum.ne.jp

展覧会概要

東京都庭園美術館の本館は、1933年（昭和8）に朝香宮家の自邸として竣工しました。1920年代にフランス・パリに滞在した朝香宮夫妻は、当時最新のアール・デコデザインに触れ、帰国後はフランスの装飾美術家アンリ・ラバンに主要な部屋の内装デザインを依頼し、自邸建設に当たりました。設計には国内有数の設計組織として名高い宮内省内匠寮の技師らを起用し、昭和初期の邸宅建築としては最高峰のひとつとされています。竣工時からの改変はわずかで、当時の様子を良好な状態で伝えることから、国の重要文化財に指定されています。

1983年（昭和58）に美術館として開館して以来、旧朝香宮邸の建築空間を生かした展覧会を開催しています。年に一度の建物公開展では、毎回様々なテーマを設けて、当館の建築としての魅力を紹介しています。今回は、旧朝香宮邸における建築空間の機能の変遷に着目します。

この建物は現在の姿となるまで、時代の潮流とともに幾重もの歴史を紡いできました。

朝香宮家が過ごした邸宅としての14年間。

吉田茂元首相が政務の場として活用した7年間。

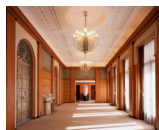
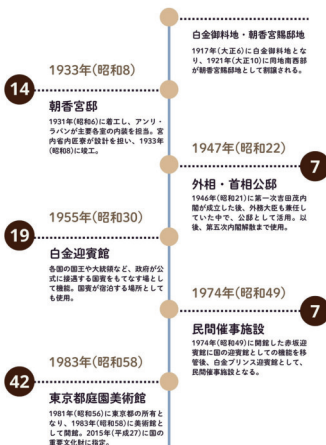
国の迎賓館として、数々の国賓をもてなした19年間。

民間の催事施設として、多くの人々に開かれた7年間。

そして今、美術館として42年目を迎えるこの建物は、時代ごとにどのような機能や役割を果たし、人々と共生してきたのでしょうか。

本展では、各時代を彩るゆかりの作品や写真・映像資料を通して、建物の記憶を紐解きます。また、建物自体の魅力を存分にお楽しみいただけるよう、家具や調度品を用いた再現展示、3階ウインターガーデンの特別公開、さらに窓のカーテンを開け放ち、夏の新緑を望めるように設えます。建築空間や室内意匠にもぜひご注目ください。

当館の変遷



東京都庭園美術館本館 大客室



東京都庭園美術館本館 大食堂



東京都庭園美術館本館 二階広間

みどころ

01

アール・デコ様式の邸宅建築として
「唯一無二の空間」を堪能

朝香宮夫妻は、バリ滞在中の1925年(大正14)7月に訪れたアール・デコ博覧会から刺激を受け、帰国後の最先端のデザインを取り入れた邸宅建設に着手します。設計を担ったのは、宮内省内匠寮の建築技師・権藤要吉。権藤もまた、1925年から1年間、欧州等への建築研究を命ぜられていました。当時そこで見聞きしたすべてが、旧朝香宮邸に凝集されています。本展では、朝香宮夫妻と権藤の欧州滞在にまつわる貴重な品々やアルバム写真を通して、朝香宮邸の建築そのものの魅力の源泉に迫ります。



松井琴真館 《朝香宮邸大客室》 1933年頃

02

「外交」を司る館

時の首相・吉田茂は、1940年代後半から外相・首相公邸として朝香宮邸を活用しはじめます。1951年(昭和26)9月に開催されたサンフランシスコ講和会議。吉田はこの場所から全権団の代表としてアメリカへ旅立ちます。一国の主権回復を懸けた平和条約調印に向け、様々な構想をこの公邸で練ったとされています。

公邸としての役割をあとにした1955年(昭和30)からは、国の迎賓館として19年間もの間、多くの国賓を招き入れました。当時を物語る資料・写真・作品等を通して、国の外交の最前線を担った館の姿をお届けします。



東京都庭園美術館本館 書斎

03

約6年ぶりの「夏」の建物公開展

毎年恒例の建物公開展。夏の開催は約6年ぶりで、緑風香る庭園を望めるように窓のカーテンを開け、かつて人々が往来した邸宅空間の再現展示を行います。さらに本館3階のウインターガーデンを特別公開します。新館では、美術館として開館して以来、装飾芸術との関連で国内外問わず収集している現代作家の作品を展示します。また、さわれる展示コーナーを設け、来館者とのインタラクティブな体験を目指します。なお、当館は本展から、都内に限らず中学生以下の皆様が観覧料無料となります。夏休みなどの、おでかけシーズンにぜひお越しください。



東京都庭園美術館本館
ウインターガーデン

写真撮影について

会期中、会場内の写真撮影が可能です。ただし、一部制限する場合もあります。以下の諸注意をご確認いただき、撮影をお楽しみください。

1. まわりの方へのご配慮をお願いします。
2. フラッシュ・レフ板・三脚・自撮り棒・望遠レンズのご使用はご遠慮ください。
3. 安全確保のため、撮影をお断りするお声掛けをする場合がございます。
4. 動画の撮影はご遠慮ください。
5. 撮影機器の落下や展示品に触れてしまう恐れがあるため、展示品の真上からの撮影や身を乗り出しての撮影はご遠慮ください。
6. 撮影は非営利目的の個人利用に限ります。商業撮影は、事前申請が必要です。
7. SNS等での写真の公表にあたって、写り込んだほかの来館者の肖像権に触れる場合があります。当館では責任を負いかねますのでご了承ください。
8. ポートレートを目的とした撮影はご遠慮ください。
9. その他、作品や建物に危険が及ぶ行為は禁止しています。

関連プログラム



画像提供：港区立郷土歴史館

サテライト展示「交わる建築 旧公衆衛生院×旧朝香宮邸」

当館に近接し、同時代の建築である港区立郷土歴史館（旧公衆衛生院）との本展コラボレーション展示を行います。港区立郷土歴史館は、1938年（昭和13）に国民の公衆衛生の普及を目的とした国立研究機関「公衆衛生院」として建てられました。その稀有な成り立ちの実運や、豊かな建築デザインは、多くの人々を魅了しています。今回、両館で使用されている木材やタイル、漆喰や大理石などの建築部材や装飾を通して、その用途の違いやデザインの比較を解説し、現在は美術館・歴史館として現存する両館の交わりをご覧ください。

会 期 2025年6月13日（金）～ 8月20日（水）
会 場 港区立郷土歴史館 4階ギャラリー（当館より徒歩10分）
開館時間 9:00～17:00（土曜日のみ20:00まで開館）
休 館 日 毎月第3木曜日（祝休日等の場合は前日）
観 覧 料 無料



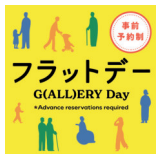
撮影：大宮英輝

さわ会一さわっておしゃべり鑑賞会

本館（旧朝香宮邸）には、金属・ガラス・大理石・木など多様な素材が使われています。通常は建物の保護のためにさわすることはできませんが、本プログラムでは、建物に触れ、素材の質感や装飾を味わい、対話を通じて感じたことを共有します。

企 画 半田こづえ（明治学院大学 非常勤講師）
時 間 2025年6月28日（土） 午前の回 10:30～12:30 / 午後の回 14:30～16:30
参 加 費 無料（当日有効の展覧会チケットが必要）
対 象 中学生以上とされた（視覚に障害がある方もない方も参加可能）
定 員 各回6名程度（要事前申込）

※申込についての詳細は、決まり次第当館ウェブサイトにてお知らせします。



フラットデー

障害がある方も、赤ちゃん連れの方も、だれもが気兼ねなく来館できるプログラム

フラットデー開催日はゆとりある環境づくりのため、展覧会の入場制限をいたします。そのため事前のオンラインチケットのご購入が必要です。当日券は会場内の状況により販売を行わない場合がございます。予めご了承ください。障害者手帳をお持ちの方とその他の保護者2名、中学生以下、その他無料対象の方（※）は事前のオンラインチケットのご購入は不要です。

（※）招待券、年間パスポート、ぐるっとバスをお持ちの方等

ゆったり鑑賞日 | 2025年6月25日（水）10:00～18:00（入館は閉館の30分前まで）

障害がある方も、ない方も、美術館をゆっくり楽しめませんか？

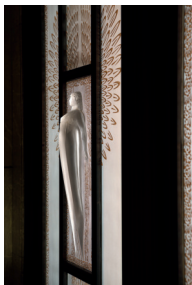
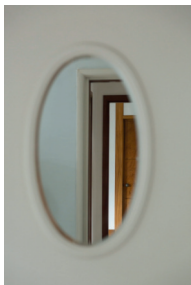
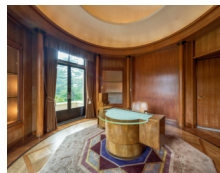
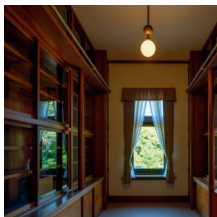
全体の入館人数を制限し、普段よりも空いた環境でゆっくりと鑑賞いただける一日です。多くの人で賑わう美術館に不安がある方も、車椅子の方や介助等が必要な方も、安心して過ごしていただけます。

ベビーカー | 2025年7月2日（水）10:00～15:00（本館内でベビーカーを利用できる時間）

赤ちゃんと共に暮らすご家族のみなさんに気兼ねなく展覧会をご覧いただける時間です。普段はベビーカーを使うことができない本館もベビーカーのままご入館いただけます。

鑑賞ツアーを同時開催
フラットデー当日はアート・コミュニケーションによる鑑賞ツアーも行います（要事前申込）

広報用画像



※すべて参考図版です。広報用画像は他にも用意があります。広報担当へお問い合わせください。

- ①吉田茂使用の《シガーケース》 大磯町郷土資料館蔵
- ②テオドル・マドセン/デザイン、ロイヤル・コペンハーゲン/製造《ペンギン》1902年頃 当館蔵
- ③松井享真館《朝香宮邸正面外観》1933年頃
- ④東京都庭園美術館本館 書庫
- ⑤東京都庭園美術館本館 地下複室
- ⑥東京都庭園美術館本館 書斎
- ⑦東京都庭園美術館本館 妃殿下寝室
- ⑧東京都庭園美術館本館 正面玄関 ルネ・ラリック ガラスレリーフ扉
- ⑨ルネ・ラリック 電動式置時計《野バラ》1926年 当館蔵
- ⑩東京都庭園美術館庭園 内庭増築 飾り枠

1	2	3
		6
4	5	9
7	8	10